

「民族共生の象徴となる空間」整備による白老町活性化推進会議

第2回 幹事会

平成26年8月22日（金）

14:30～15:45

白老町総合保健福祉センター

次 第

1 開 会

2 議 事

(1) 経過報告等

- ① 活性化推進会議の開催経緯（資料1）
- ② 今後のスケジュール案（資料2）

(2) 各部会の検討（SWOT分析）

- ① 情報推進部会（資料3）
- ② 活性化推進部会（資料4）
- ③ 基盤整備推進部会（資料5）
- ④ 教育・学習推進部会（資料6）

(3) 今年度の事業計画について

- ① 先進地視察の実施（資料7）
- ② 基本構想・基本方針の策定（資料8）

3 そ の 他

4 閉 会

【活性化推進会議第2回幹事会 開催概要】

(1) 日 時 平成26年8月22日(金) 午後2時30分～3時45分

(2) 出席者 22名

【内訳】

幹事：15名 事務局(部会)担当者：8名(1名重複、別紙参加者名簿のとおり)

(3) 概 要 1. 開会 ※司会：総合行政局長

2. 議事

(1) 経過報告等

①活性化推進会議の開催経緯

※資料1に基づき、今年度における合同学習会・各専門部会・理事会・幹事会等開催経過について、事務局から説明。

②今後のスケジュール案

※資料2に基づき、今年度以降のスケジュールについて、長期的視点および直近(H26・27d)に想定される工程等について、事務局から説明。

(2) 各部会の検討(SWOT分析)

①情報推進部会 ②活性化推進部会

③基盤整備推進部会 ④教育・学習推進部会

※資料3～6に基づき、SWOT抽出により分類した各部会における協議において生じた検討内容・課題等について、各部会事務局から説明。

(3) 今年度の事業計画について

①先進地視察の実施

※資料7に基づき、国内先進地(8地域)をエリア分けした視察行程(案)について、各地域の取組(特徴)等概要と併せ事務局から説明。

②基本構想・基本方針の策定

※資料8に基づき、今年度・来年度に予定される基本構想・基本方針の策定に向け、コンサル導入等外部委託の可能性も踏まえたスケジュール感について、事務局から説明。

(4) 意見等

(2) ①情報推進部会②活性化推進部会 関係

【白老ライオンズクラブ】

- 今後の象徴空間整備(開設後)に向け、来訪者向け宿泊施設の不足が否めないところであるが、(誘致・既存施設リニューアル等への)町としての対応・後押しは??

→現時点で具体的な話しは出来かねるが、町内での個々における動きは有る。お示し出来る段階で改めて示したい。

(3) ②基本構想・基本方針の策定 関係

【しらおい体験協会】

- 国の動きが未だ不透明な状況であるが、このタイミングでコンサル導入し構想を策定していくことに不安を感じる。
また、内部(町内)における認識が薄い中、外部関係者(特に観光業界)はアンテナを張り情報収集に努めている。内部においても、積極的に周知の機会を増やす等、有効な取組を進めていく必要が有る。

4. 閉会 ※15時45分

専門部会の推進構想に向けた検討シート

専門部会名	情報推進部会	
検討項目	検討内容	検討課題
1 検討工程と役割分担	<ul style="list-style-type: none"> ・平成 26 年度：イランカラフト運動や象徴空間の取組状況を伝達する方策を探る。 ・平成 27 年度：情報収集に努め広く象徴空間を町内外に周知する活動を展開する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「イランカラフトの日」の制定や「イランカラフト挨拶運動」の実施を検討
2 活性化推進の「強み」 (Strengths)	<ul style="list-style-type: none"> ・事務局のアイヌ施策推進グループが国等関係機関とのパイプ役となっているため、情報伝達が比較的早く行われる可能性がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・伝達内容の吟味、伝達の迅速性を高める ・電子版ニュースレター等の作成
3 活性化推進の「弱み」 (Weaknesses)	<ul style="list-style-type: none"> ・参加した部会員が所属団体へ報告し、そして集約された意見を部会に反映するというシステムが構築されていない。 ・一般公開まで 6 年を切った象徴空間に対する反応が町民から伝わってこない。 ・町の財政状況が厳しい中、予算がないと何もできないなどのあきらめ感がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・早急に改善し実施する必要がある ・情報発信にも最低限の予算が必要
4 活性化推進の「機会」 (Opportunities)	<ul style="list-style-type: none"> ・町広報誌に毎月特集ページを組むなど情報の提供に努めている。また、町議会でも定期的に取り上げられる一方、新聞各紙での露出度も高い。 ・講演会や学習会などの機会を増やし、一般町民の関心を高める。 ・北海道や近隣の東胆振、洞爺・支笏観光圏の自治体等とさらなる連携を図り、象徴空間 PR に供する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・メディアに取上げられる機会は多いものの、町民が象徴空間事業を理解しているとは言い難く、より効果的な周知方法について検討 ・ポスター・チラシの増刷作成と配布
5 活性化推進の「脅威」 (Threats)	<ul style="list-style-type: none"> ・4 部会全体として、象徴空間の集客人数等を国が明示しない現状では、部会での検討は無意味とする意見があるなど話が進展しない。 ・行政依存で自ら進めようとする機運が希薄。沈滞ムードのまま一般公開を迎えることは避けたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・一般公開まで 6 年と時間がない中で、新設施設の規模によらず、想定についての検討を進める必要がある ・全国規模で宿泊施設の誘致を進める
6 取組の目標と必要性	<ul style="list-style-type: none"> ・4 部会全体として、コンサルタントを導入して基本構想を策定し、象徴空間周辺の環境整備に想定される機能や施設を明確にして、部会の議論を活発化させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・一般公開に向けては、町民のアイヌ文化学習や語学研修、ボランティアへの参画等の検討

※ 各専門部会に関する事項の進め方、現状分析、将来展望、取組目標とその必要性を明確化する。

専門部会の推進構想に向けた検討シート

専門部会名	活性化推進部会	
検討項目	検討内容	検討課題
1 検討工程と役割分担	平成 26 年度： 推進構想の策定（取組方針、事業方針、将来方針等） 平成 27 年度： 推進計画の策定（年度別、取組内容、事業内容、期待成果等）	<ul style="list-style-type: none"> ・情報収集力、推進能力の不足 ・コーディネートの外部支援
2 活性化推進の「強み」 (Strengths)	<ul style="list-style-type: none"> ・民族共生の象徴となる空間の基本方針が 6 月上旬に閣議決定された。 ・白老町は特産品、食材に優れている。虎杖浜地区に温泉宿泊施設がある。 ・観光商協として、過去のしがらみに捉われず自由な発想が考えられる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・2020 年までの時間がないため早期の具体的な構想提示を求めたい ・食材を活かした(付加価値)新たな土産品開発。ポロト地区の温泉活用、宿泊施設整備が課題。
3 活性化推進の「弱み」 (Weaknesses)	<ul style="list-style-type: none"> ・多様な産業があるが点在しており、なかなか一元化できない。社台から虎杖浜までの街並みが長い。それぞれの地域の個性が強い。 ・白老駅北から博物館までの導線。異空間をイメージした遊歩道。商店街との導線が必要。 ・高齢者人口も増えており、商売をするにしても働き手が確保できるか。 ・食は虎杖浜、竹浦と連携しなければポロト周辺だけでは足りない。地域連携が必要。 	<ul style="list-style-type: none"> ・産業間連携と人的連携の強化 ・駅北整備や遊歩道の整備は町財政が厳しいため整備が困難。(補助活用可能か) ・若者の地元雇用に向けた対策 ・駅北についても 6 年後を目指して整備するなら、今からスタートしなければ間に合わない。
4 活性化推進の「機会」 (Opportunities)	<ul style="list-style-type: none"> ・国立博物館の開設向け、白老町全体での盛り上がりが必要。 ・最近では学校でも地元の歴史文化を学ぶ学習に取り組んでいることから、博物館を中心に大きく宣伝をできる企画を組むべき。 ・海外からはインバウンドが伸びており、特にタイなどのアジア圏は伸びている。登別、洞爺との連携も加えながら伸ばしていく必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・現状のアイヌ民族博物館は情報発信力が弱い ・いまアイヌ民族博物館には 3 つのタイプのお客様が来ており、「一般観光」「教育旅行」「海外客」とある。タイプ別に何をプラスすれば良いか考える必要がある。
5 活性化推進の「脅威」 (Threats)	<ul style="list-style-type: none"> ・国の政策として、何かの要因により中止、縮小することが心配である。 ・現段階の構想のなかで、どの程度の営業活動ができるかが見えていない。 ・博物館計画は進んでいるが、「文化伝承」が進んでおらず急務である。 ・いまだに心配されることは教育施設の位置づけかどうかということ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・構想の全容が見えないため、活性化推進部会として、どこまでの提言ができるか曖昧である。
6 取組の目標と必要性	<ul style="list-style-type: none"> ・3 つのゾーン(博物館ゾーン、中央広場ゾーン、体験・交流ゾーン)で、それぞれ目標を立てることが大切 ・各分野で自分たちの仕事とリンクさせ、「食」「宿泊」など大きなセクションに分かれてアイデアを出し合えば議論は進むと思う。 ・一番興味がある、いまの中高生に話を聞く機会を作ってはどうか。どういう施設があったらいいか。若い人の意見も必要。 ・「食」「宿泊」「体験」「駅北」「伝承」「雇用」など大きなポイント、課題ごとの整理が必要。 	<ul style="list-style-type: none"> ・視察候補地 3 カ所(九州国立博物館、福井恐竜博物館、金沢 21 世紀美術館)は、どれも評価が高いため参考にされたい

※ 各専門部会に関する事項の進め方、現状分析、将来展望、取組目標とその必要性を明確化する。

専門部会の推進構想に向けた検討シート

専門部会名	基盤整備部会	
検討項目	検討内容	検討課題
1 検討工程と役割分担	平成 26 年度：中核施設周辺土地利用及びアクセスの改善構想（取組・事業方針） 平成 27 年度：中核施設周辺土地利用及びアクセスの改善推進計画（事業内容）	<ul style="list-style-type: none"> ・ 情報収集 ・ コーディネートの外部支援
2 活性化推進の「強み」 (Strengths)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 中核施設及びその周辺は、自然観察ややすらぎの場を提供する広大な自然休養林など、地域固有の文化や恵まれた自然を有し、JR 白老駅や道央縦貫自動車道に容易にアクセスできる利便性の高い地区である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 回遊・滞在向上 ・ 誘導サイン（デザイン工夫）整備
3 活性化推進の「弱み」 (Weaknesses)	<ul style="list-style-type: none"> ・ JR 白老駅から町道中央通及び町道公園通からの徒歩によるアクセスの改善検討 ・ JR 白老駅に特急列車停車要望（ホームの改善要） ・ 町道中央通からの自動車利用によるアクセス（入込数増、及びドライブ観光需要増による渋滞が懸念される。） 	<ul style="list-style-type: none"> ・ JR 駅自由通路（バリアフリー） ・ 中央通沿道商業施設の衰退（街並みの不連続性）、公園通沿道の景観やサービス施設検討 ・ 来訪者のアクセス方法予測
4 活性化推進の「機会」 (Opportunities)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 平成 26 年度末を目標に策定される「博物館基本計画」及び今後策定される「公園の土地利用基本構想・基本計画」が示される段階の前に町としてゾーン外の土地利用構想を策定する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 情報共有、基本計画等との調整
5 活性化推進の「脅威」 (Threats)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 豊かな自然の保全と創造に努め、その利用にあたっては節度をもって計画する。（中核施設周辺西側には、希少な動植物が見られるヨコスト湿原が広がっており、ポロト自然休養林を源流とし、ポロト湖を経て流出するウツナイ川につながる湿原である。） 	<ul style="list-style-type: none"> ・ ポロト湖周辺の散策やレジャー及び温泉利用者が従来どおりの利用確保
6 取組の目標と必要性	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自然環境や樽前山の雄姿とポロト湖とが一体となった北海道を代表する美しく地域色豊かな景観の保全・創出を図る。 ・ アイヌ文化復興等に関するナショナルセンターにふさわしい周辺土地利用を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 情報共有、基本計画等との調整

※ 各専門部会に関する事項の進め方、現状分析、将来展望、取組目標とその必要性を明確化する。

専門部会の推進構想に向けた検討シート

専門部会名	教育学習部会	
検討項目	検討内容	検討課題
1 検討工程と役割分担	平成26年度：基本骨子の策定 平成27年度：具体的な肉付け（対象・時期・手法・媒体・費用等）	・部会員の知識や理解度増加のための時間が必須
2 活性化推進の「強み」 (Strengths)	アイヌ民族博物館が有する基礎～専門的な知識および文化財（有形・無形）と、北海道全域を対象に培われてきたコミュニティ。また学習のためのノウハウの存在について 町内に残る伝承地の活用方法について	・普及対象の設定や細分化、内容の整理と項目立て（例：小学校6年間での到達点など）
3 活性化推進の「弱み」 (Weaknesses)	学習の機会として用意される分野や発信される情報の偏りが指摘されていることについて（歴史的な部分に代表される情報の疎遠性。また発信する側にもある未統制と忌避感）	・既存の施策の精査および見直し ・偏りの解消と不足部分の補足
4 活性化推進の「機会」 (Opportunities)	素材をどう利用していくかの議論が未発達であることについて 学びたいときに学べるようにするための方法について（町の独自性）	・既存団体の連携強化と分担化 ・頻度や親縁性の増加や強化
5 活性化推進の「脅威」 (Threats)	アイヌ民族・文化に対する既知意識の問題点（情報の偏りにもよって併発さえる弊害や「アイヌとはこういうもの」とする誤解および偏見）について 話題化されることにより高まる反応と関心への対応力の強化について	・固定概念の把握と解消方法 ・一極集中による弊害の予防
6 取組の目標と必要性	効果的な情報発信のための組織化や内容の整理について 多民族社会に関する意識の向上方法について 既存事業の整理と補足の手法について 必要に応じた予算化について	・情報整理 ・組織体制の構築 ・学習意識の向上（誘発力の強化） ・予算措置

※ 各専門部会に関する事項の進め方、現状分析、将来展望、取組目標とその必要性を明確化する。